



国際

沿岸レポート

## 第14回国際沿岸防災 ワークショップの報告

一般財団法人沿岸技術研究センター  
主任研究員 川原 修

当センターは、国立研究開発法人港湾空港技術研究所及び国土交通省港湾局と共同で国際沿岸防災ワークショップを毎年1回程度、国内外で開催しております。本ワークショップは、世界各地における沿岸域の災害を低減するため、知識の共有と国際協力の推進を目的として実施しているものであり、今回で14回目となります。

平成27年7月27日東京品川のココヨホールで開催された「第14回国際沿岸ワークショップセッションプログラム(高潮・高波)―ハリケーンカトリーナから10年―」では、近年の地球の気候変動に伴う海面上昇や台風の巨大化によって沿岸域における高潮・高波災害のリスクが高まっていることを背景に、ハリケーンカトリーナ後10年の節目の年でもあるため、災害からの復旧・復興、高潮に関する最近の研究、各国における高潮および海面上昇への対応などについて議論しました。

ワークショップでは最初に、主催者を代表して高橋重雄(国研)港湾空港技術研究所理事長および大脇崇国土交通省港湾局長が挨拶されました。その後、下迫健一郎港空研特別研究官による総合司会のもと、基調講演にはいり、磯部雅彦高知工科大学学長による「将来の高潮対策に対する包括的防災対策」と題した講演が行われました。続いて午前1つ、午後2つのセッションがあり、全9名の講演を踏まえ、セッション終了後には「今後の高潮防災について」のテーマでパネルディスカッションが行われました。ここでは、コーディネーターを高山知司沿岸技術研究センター沿岸防災技術研究所長、京都大学名誉教授が務め、磯部学長と各セッションから2名ずつがパネラーとなり、活発な議論が行われました。最後に川島毅沿岸技術研究

センター理事長の挨拶をもって盛会裏に終了しました。

3件のセッション内容は以下のとおり。

### ○セッション1「災害からの復旧・復興」

司会：平山克也 港空研チームリーダー

・Mr.David J.Leach アメリカ陸軍工兵隊(USACE)プログラムディレクター

【USACEによるサンディプログラム：対応、復旧および地域復興】

・Dr.Eric C.Cruz フィリピン大学教授

【マニラ湾に來襲した高潮の追算：ロキサス・プールバード護岸越波に対する地域減災戦略に向けて】

・鈴木高二郎 港空研チームリーダー

【高潮による海岸構造物の被災メカニズム】

### ○セッション2「高潮に関する最近の研究と対策」

司会：下迫健一郎 港空研特別研究官

・Dr.Jeffrey A.Melby USACE工学研究所グループ長

【熱帯低気圧に曝された海岸線における海岸ハザード】

・森信人 京都大学准教授

【最近の高潮高波災害と気象変動の影響】

・藤木峻 港空研研究官

【台風ハイヤン〈2013〉による高潮のシミュレーションと現地調査】

### ○セッション3「各国における沿岸災害対策」

司会：鈴木高二郎 港空研チームリーダー

・Mr.Roselle E.Henn USACE副ディレクター

【北大西洋海岸における包括研究：増加するリスクに対応する復興策の適用】

・小堺正啓 東京都水防対策担当課長

【東京港における高潮・津波対策】

・三村悟 国際協力機構地球環境部次長

【太平洋島諸国における減災】



会場の様子



パネルディスカッションの様子